

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪

Nr. 19 2018年1月10日(水) 文責: プファイル・辰巳

新年明けまして おめでとうございます!

2018年の始まりです。本年もよろしく
お願いします。

さて、みなさんはどこで、どんなお正月を
迎えたのでしょうか? 年越しソバ、除
夜の鐘、お節料理に年賀状、、、日本には新年
を迎えるに当たり、種々の伝統的な風習があり、地方地方に、また違った習わ
しもあることでしょう。クリスマスはドイツ風に、お正月は日本風に・・・が、
私の冬休みの理想ですが、現実はなかなか思うようにはいきません。日本から
遠く離れていても、日本の良き慣習は忘れないでいたいものです。



準備 OK ですか?

3学期の授業準備は OK ですか? 最初の時間に、よくリコーダー
や鍵盤ハーモニカを忘れてくる人がいます。冬休みに持ち帰った楽器
を忘れずに持ってきておいてくださいね。

<作曲家のこの一曲 ⑨ エルマンノ・ヴォルフ=フェラーリ オペラ「マドンナ(聖母)の宝石」より間奏曲>

今回はあまり馴染みのない作曲家です。ヴォルフはドイツ語で狼の意味です
ね。フェラーリはイタリアの車!? 実はこのヴォルフ=フェラーリという作曲
家は、お父さんがドイツ人、お母さんがイタリア人でした。1876年の1月に
ヴェネチアで生まれ、ローマやミュンヘンに転居した時代もありましたが、最
期はやはりヴェネチアで、1948年1月に亡くなりました。1月生まれの1
月に没した作曲家として、今回取り上げた次第です。

ヴォルフ=フェラーリのお父さんは、画家だったそうで、自分の息子にも画

家になって欲しいという願いがあり、エルマンノは最初、美術を勉強していた
そうです。6歳から習い始めたピアノでは、その才能を見せつつも、音楽はこ
のころ、あくまでも趣味として習っていました。

そのエルマンノは16歳になったとき、J.S.バッハの音楽に魅了され、ここ
で人生の転機を迎えます。美術の道から一転、音楽の道に進むことを決心する
のです。そしてミュンヘンの音楽学校に入学して、音楽の勉強を本格的に始め
ました。音楽の勉強を終えた後は、故郷のヴェネチアに戻り、音楽教師をしな
がら作曲を続けます。大部分はオペラで、ヴェネチアだけではなくミラノのス
カラ座をはじめ、ミュンヘンやドレスデンなど、ドイツの各地でも演奏される
ようになり、徐々に作曲家としての名声を高めていきます。オペラの他にもオ
ーケストラ作品や歌曲なども、もちろんたくさん作曲しました。

エルマンノ・ヴォルフ=フェラーリの作品の中で、今日特に知られているの
が、オペラ「マドンナ(聖母)の宝石」の中の間奏曲です。オペラの登場人物
の揺れ動く恋心を表すかのように、短調の中に時おり現れる長調のメロディ。
切ない恋心が伝わってくるような響きです。

この間奏曲だけが、マスカーニの「カヴァレリア・ルスティカーナ」の間奏
曲同様に、オペラ全体よりも突出して愛され、演奏されます。日本では「名曲
アルバム」で有名になりました。YOUTUBE で聴くならロンドン交響楽団の
演奏がおすすめです。

ちょっとだけ 演奏会情報

1月21日(日) 11時から・22日(月) 20時から
両日とも アルテオーパー・大ホールにて
フランクフルトオペラ交響楽団の演奏
チャイコフスキー 組曲「白鳥の湖」
交響曲 第1番 ほか

1月21日(日) アルテオーパー・モーツァルトホールにて
16時から ファミリーコンサート
「サクソの音楽」

1月29日(月) アルテオーパー・大ホールにて
20時から グレン・ミラー・オーケストラ
「ムーンライト・セレナーデ」